



プレスリリース

2009年8月31日

プロロジス、日本ロジスティクスファンド投資法人と パイプラインサポート協定書を締結

- 一部施設の共同保有・共同運営を目指す -

物流施設のグローバル・プロバイダー、プロロジス(日本本社: 東京都港区東新橋)は、2009年8月31日、日本ロジスティクスファンド投資法人及び三井物産ロジスティクス・パートナーズ株式会社(以下、「JLF」)との間で「パイプラインサポートに関する協定書」(以下、「協定書」)を締結したことを発表しました。

プロロジスは2008年11月以降、全世界で負債を削減しバランスシートを強化するという目標を掲げ、数々の戦略を遂行してきた結果、今日までにその目標をほぼ達成しました。今後日本においては、新規開発した物流施設を長期保有資産として自社で100%保有する一方で、一部の施設についてはパートナーと共同で保有する方針です。また同時に新規施設の開発についても、その一部の事業を外部パートナーと共に実施するべく準備を進めています。

今回プロロジスの戦略と、優良物流不動産の長期安定運用を指向しているJLFとのニーズが合致したことにより「パイプラインサポート協定書」の締結に至ったものであり、今後プロロジスの開発した一定規模の資産についてはJLFとプロロジスが共同保有、共同運営を目指していきます。なお施設を共同保有する場合には、プロロジスが施設の一部持分を保有すると共に、プロパティマネジメントおよびリーシング業務など、施設の管理・運営を引き続き担当します。

施設の共同保有の開始時期や対象施設などの詳細については今後決定しますが、プロロジスはJLFに対し安定的に投資機会を提供していく方針です。またJLFのメインスポンサーである三井物産グループとの新規施設の共同開発についても、その可能性について今後具体的に検討していく予定です。なお、今回の協定はプロロジスとJLFの2社間での排他的協定ではなく、それぞれ他社との共同事業を行うことも可能であり、プロロジスは現在複数の企業と新規共同事業の実施について検討しています。

また今後日本においては、外部からの資本調達の一環として、今回のパイプラインサポート協定に加え、私募ファンドの組成など、様々な戦略を検討していく予定です。

プロロジスは、引き続き物流施設のリーディング・プロバイダーとして、日本において今後も全国でお客様の物流効率化のニーズにお応えできる、最新で優れた物流施設の開発・運営を積極的に進めていきます。